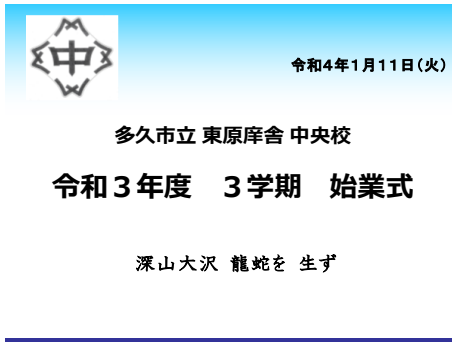


令和4年1月11日（火）

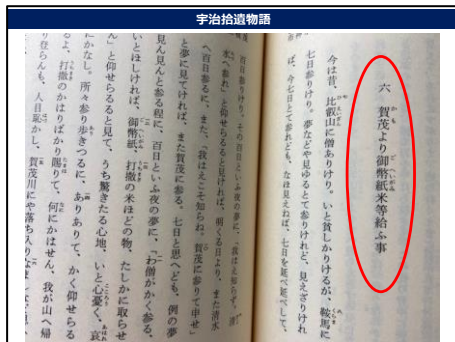
### 3学期始業式訓話

学校長 下村昌弘

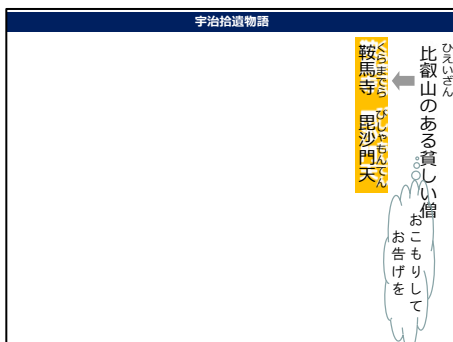


- 全校の皆さん、おはようございます。
- 遅まきながら、新年の挨拶をします。皆さん、あけましておめでとうでございます。初夢はどんな夢でしたか。心も体も元気にいい年を迎えられましたか。

- さて、今日は新しい年の始まり、新しい学期の始まりに当たって、夢や願いを持ち続けることの大切さを話そうと思います。

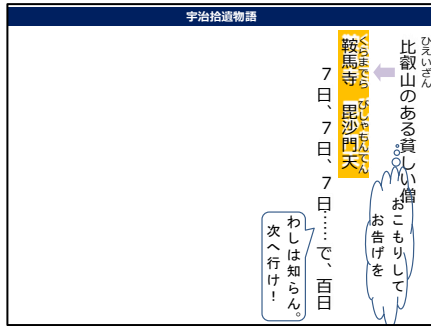


- 今日の話は、『宇治拾遺物語』という鎌倉時代に書かれた説話集から紹介します。
- タイトルは「賀茂より御幣紙（ごへいがみ）米等（など）給ふ（たまう）事」という話です。よく聞いてください。



- 昔々、比叡の山に一人の貧しい僧がいました。
- ある時、鞍馬の毘沙門様に7日間の参籠（さんろう）をしました。「参籠」というのは、神社やお寺などに、ある一定期間閉じ籠って、心を清め、修行することです。俗に「おこもり」と言います。こんなイメージです。

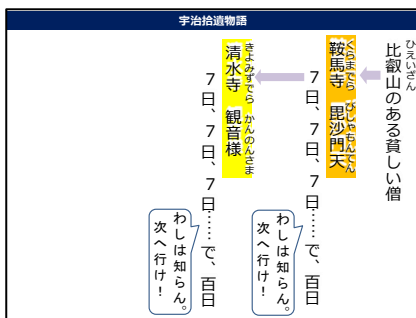




- その7日間おこもりをすることによって、夢でお告げがあるだろうと期待していました。
- それなのに、なんの夢も見ない。しかたないので、もう7日間頑張りました。
- それでも何の夢を見ないので、さらに7日

延期しました。

- それでも見ないので、もう7日、それから7日また7日。ついに100日間のおこもりをしました。
- 100日目の夜、やっと夢を見ました。でもそれは、ちょっとがっかりするような夢でした。
- 鞍馬の毘沙門様はこうおっしゃいました。
- 「私は知らぬ。清水の観音様に頼むがよい」と。



- それで今度は、あくる日から清水寺におこもりしました。
- 同じようにして結局100日のおこもりをしました。100日目の夜に夢を見ました。観音様はこうおっしゃいました。
- 「私は知らぬ。加茂の大明神様にたのむがよい」と。



- 今度は、賀茂神社に向かい、お籠りをしました。
- 同じようにして100日目の夜にようやく夢を見ました。加茂の大明神様はこうおっしゃいました。
- 「お前の無駄足がかわいそうじゃ。御幣(ごへい)を作るほどの紙と打ち撒き(供え物)に使うほどの米をお前に授けよう」と。

- 御幣紙、打ち撒き用の米はこんな感じです。

- でも、どちらもあまりたいしたものではなさそうですね。



- それで、その僧は夢からさめてがっかりしてしまいました。なぜなら、あちこち長い間お参りして、挙句の果てに「紙と米」をくれるとおっしゃった。今さら打ち撒き用の米（こめ）や御幣紙（ごへいし）程度のものをもらったからといって何になろう。このまま比叡山に帰るのも恥ずかしい。いっそ身を投げようか。とも思うがそれもできない。
  
- そしてとぼとぼ比叡の山へ帰って行きました。
  
- 帰ってから何日目かに、夢でお告げがあったように、ある人から箱に入った白い米と上等の紙が届けられました。
  
- おつげが当たったとは言うものの、やはり、その僧はあまりうれしい気持ちにはなりませんでした。
  
- しかし、その米と紙は使っても、使っても、いっこうに変わらないではありませんか。
  
- そうこうするうちに、この僧は、すごく立派というほどではありませんが、まあまあ裕福なお坊さんになったということです。
  
- やはり神仏には、気を長くもって、しっかりお参りすべきですね、という話です。
  
- 結論。「なほ、心長くもの詣ではすべきなり」。やはり気を長く持っておまいりすべきである。

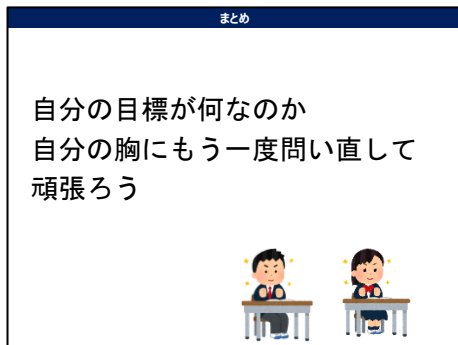
夢や願いを持ち続けて  
それを実現させようと努力すれば  
やがては報われる



- この話から、私たちは夢や願いを持ち続けてそれを実現させようと努力すればやがては報われるものだというを読み取ることができます。
- 実はこのお正月、ある卒業生から年賀状が来ました。その生徒は自分の夢を実現させ、今なおその夢を継続中の人と言えます。これがその年賀状です。個人情報ですがちらっとお見せします。送り主は中央に移っている女性です。
- この年賀状には、かつてと変わらない笑顔で赤ちゃんを抱いている彼女の写真正があり、その下に手書きでこう添えられています。
- 「10月に息子が誕生しました。春からは家族3人でイタリアで生活する予定です」。赤丸の部分です。
- この人は、高校生の頃、「外国へ行きたい、日本と外国をつなぐ仕事がしたい」と英語を一生懸命に勉強していました。とっても穏やかでやさしい性格でしたが、目標から目をそらさない、一途な人でもあり、みんなから愛されていたように思います。
- 実はこの人は、高校卒業後、大学に合格はしたのですが、合格したのは自分の第一希望の学部ではありませんでした。
- 大学入学後、その悔しさをばねに勉強に励み、大学2年生の時に、その努力が認められて、第一志望の学部に移すことができたのです。
- 大学を卒業した後は、公務員となり仕事を頑張っていました。つい数年前まで、公費でアメリカに留学していました。帰国後に出産、そして今度は、イタリアへということのようです。

○ 今回、こうした年賀状をもらって、ずっと今も夢を追い続けて、それを実現させているのだなあと思えて、とても清々しい気持ちになりました。

○ ではまとめます。



○ 継続は力なりと言います。継続することはとても大事なことです。

○ では、一つのことを継続するためには何が必要でしょうか。そのためには、その目標をはっきりさせることが大切です。

○ その目標は、途中で変わってしまっても、もちろん構いませんし、途中、忘れてしまっても構わないと思います。

○ ただ、その目標の「核」になるようなもの、目標の「種」のようなものをなくさずに生活し続けていると、心の底に、何かひとすくいの砂金のようなものが積もってくるのです。

○ その積み重ねによって、いつかその夢は叶うのです。それで十分なのです。

○ 今、皆さんの中に、学校生活の目標を見失っている人はいないでしょうか。目標が失われると、毎日の生活をやる気をもって過ごそうとする力が弱くなってしまいます。

○ 新年が始まって十日余りが過ぎました。今日から新学期、学年最後の学期、仕上げの学期が始まりました。

○ 今日は、もう一度、自分の学校生活の目標が何なのか、今年の目標は何なのか、

自分の胸に問い直して、あらためて新年・新学期のスタートを切ってほしいと思います。

- これで私の話は終わりです。では皆さん、今年もよろしくお願いします。